

グリーンサークル 41号

クローズアップ
活動団体紹介

住崎 岩衛
多摩中央公園班
一本杉公園みどりの会
鈴木 隆史

多摩市みどりのかわら版



キジムシロ

～クローズアップ～

なな山緑地 寄付から 20 年を迎えて

住崎 岩衛 (住崎建築事務所)

早いもので、父が他界し、今年で 20 年を迎える。私は当時会社員で名古屋に単身赴任していた。

H13 年 8 月末父が倒れ病院に駆けつけると、担当医からあと数日の命と告げられた。



住崎岩衛氏

名古屋と東京を往復し 9 月 3 日夜見舞いに行くと、「トラックの荷台に俺を乗せて畑につれていけ」。私は「後は自分が畑をやるから大丈夫」と思いもしない言葉が出た。

父は、「そうかやってくれるか」と微笑みを浮かべ、私の手を握った。その晩名古屋に戻り翌朝出社すると直ぐに電話が鳴った。今朝息を引き取った。

長男である私は本家の跡継ぎ覚悟を決めた。申告は 10 ヶ月以内だ。妻にも相談せず会社に退職届を提出した。妻からは、私たち生活費はどうするの？

子供たちは、小学校 3 年生と 1 年生だった。都市近郊の農家は相続税が数億の額になる。サラリーマンの収入とは比べ物にならない。土地はあるが、現金等あるはずがない。生産緑地を売却し相続税を納めるのが現状だ。

多摩市は和田の山一地帯を緑の基本計画緑地として線引きをしていた為、買収を要望したが、財政面で余裕がないと。京都では、京都議定書が議論・採択された時代であった。

「和田の山」評価額は 20 億越えであった。このまま相続したら山を造成することになるため、国・都の緑地保全策を調べたが、今の姿を残す仕組みは一つ無かった。渡辺市長を訪ね、雑木林は農家の維持管理を継承する条件で、寄付に至った。

また、行政に山を寄付することで相続税は免除されるからだ。2004 年多摩市で開かれた全国雑木林会議の分科会

で、パネリストを担当し里山保全をする法整備が無い現状を説いた。一緒に参画していた横浜市緑政局田並静氏は、多摩市は寄付をする人に諸経費まで負担させている行政姿勢を批判した。ちなみに横浜市は諸経費全て行政負担である。

傍聴した渡辺幸子市長は「私は諸経費まで負担なされた事を初めて耳にした。誠に申し訳ない」と、頭を下げた。

同年、農工大と府中市民共同企画で環境づくりをテーマにした「都市に水とみどりのやすらぎを」のパネリストを担当し、里山を寄付する経緯を市民にしたところ、傍聴席からは、「何故、多摩市に寄付をするのか。あなたは府中市民ではないか。雑木林を売却し大きな利益を得た方が得等の声が多かった。

2013 年多摩市「みどりの基本計画改定」の市民説明会を傍聴。寄付した土地の一部が私に説明もないまま道路幅計画に含まれ啞然とした。市へ金銭で清算する様、申し入れた。

私は、父との約束を守り毎年「くず掃き」を続け、今年で農業歴 20 年を迎える。江戸時代から続く雑木林の恵みを、畑に循環させる啓発を続けている。「なな山緑地の会」は、会発足から高木直樹会長・相田幸一副会長を始め会員の皆様、当時公園緑地課菊地主査の協力があって、17 年間活動が続いている。雑木林は子供たちへの環境学習の場であり、多くの方々に愛されている。

会の運営は、事務局鎌田文雄さんが色々な団体・企業へ



「和田の山」の思いを伝える(グリーンボランティア講座にて)

なな山緑地 (和田緑地保全の森)
多摩市和田にある、特別緑地保全地区。住崎さんにより 2002 年多摩市に寄付された。この森を保全するために、2003 年「なな山緑地の会」が地域住民とグリーンボランティア講座修了者で結成された。

環境保全活動助成金を申請・プレゼンを行い9割以上の確率で受領した。個人的には建築士として日本建築士会連合会から「まちづくり賞」を受賞できたことを誇りに思う。

また、中原君代さんを中心に、なな山緑地の植物調査を実施し、植物図鑑にまとめられている。その他、牧野記念館に収納する活動を進め、382 点の「さく葉標本」を収め

た。2018 年 TMU ギャラリーで開催した植物標本展を開催し、多くの市民が訪れた。標本の作製に携わった会員の「名前・何時どこで採取した等」記録され、次の世代の貴重な資料となると信じています。

結びに、雑木林の維持保全に汗を流した、多くの皆様に深く感謝申し上げます。

～活動団体紹介～

今後の中央公園について

多摩中央公園班 副班長 清水 昭

多摩中央公園の大規模改修の民間業者へ委託しての工事、および改修後の管理運営業務を一体化することについての業務選定の公募・入札が、令和3年度より始まり、その後実際に改修工事が行われるの予定です。

私は約 20 年前から多摩中央公園班で保全活動を行っておりますが、このようなことは多摩市としても初めての事であり、実際の管理・運営がうまく行われるよう、大いに期待しています。また、パルテノン多摩との連携、建設予定の図書館本館及びグリーンライブセンターとの連携につきましても、どのように連携していくのか、その在り方や方法等を他の組織と共に話し合い、模索していくことが必要ではないかと思えます。

特に、多摩中央公園班の活動地域での改修工事が行われることは、これからの我々の保全活動の方向を見定めるためにも非常に重要なことで、しっかり見ていく必要があると思えます。また、グリーンライブセンターの改修工事は、どの業者が行うにしても、担当部署との話し合いの結果を重視して行うことが必要であると考えます。

大規模改修が終了した後の民間業者、パルテノン多摩、図書館本館、グリーンライブセンター及び、公園緑地課との連携につきましても、各々の立場に固執することなく、柔軟に対応し話し合い、連携していくことが必要と思われる。建屋等のハード面より、中央公園全体の管理運営を

雑木林の管理（中1地区）



連携して行うソフト面の方が、非常に難しいとは思いますが、各々の立場を乗り越えて行くことが必要と思えます。

旧富沢家の反対側にある大木の根が露出し、幹が住宅側へ斜めに傾き非常に危険なため、永年にわたり、多摩中央公園班としてこれらの伐採を公園緑地課へ依頼していましたが、ようやく今回の改修工事の一環として着手することになりました。その際、斜面の崩落を防止するため、斜面をネットで覆うことになるようです。これらは、非常に難しい工事のように思いますが、ぜひとも、うまく仕事をしたいと思えます。

グリーンライブセンター内の工事の際、公園の外側から車両を進入するために、斜面を切り崩して進入路を作る予定があると聞きましたが、その予定地の上に、我々の種々の機材類の倉庫がある為、倉庫は、園路途中に有る公園の機材倉庫付近に移転することを予定しています。

工事期間中は、我々の班は、活動地区が工事で活動不可のため、残念ながら一時活動停止となり、他の班で活動するか休止せざるを得ない状態となります。改修工事完成後は、作業範囲等どのようにするか、市の担当部署及び工事施工業者と話し合いが必要になると思えます。今までと同じような保全活動が再開できるようになるかは分かりませんが、多摩中央公園班が多摩市のみどりにいつまでも関わっていけることを願います。



タケノコと遊ぶ講座に参加する清水さん（写真右）

～活動団体紹介～

一本杉公園みどりの会

一本杉公園みどりの会 副代表 高橋 敬

一本杉公園を多摩よこやまの道が通っているため、「はるひ野駅」の開業で来園者が増え、コロナ禍でさらに増えたのではと感じています。

私たちの会は 20 数人で、10 ヘクタール以上ある一本杉公園の中の 1.9 ヘクタールの雑木林の保全整備を受け持っています。コナラやクヌギを中心に竹林も含んだ雑木林です。一本杉公園は、多摩ニュータウン計画の中で造成された公園ですが、ところどころに開発前の里山林の地山が手つかずのまま残っています。そんなところでは、シュンラン、キンラン、ギンラン、エビネ、サイハイラン、オオバノトンボソウ、マヤランなどのラン科植物が見つかります。また、タマノカンアオイやユウレイソウ、フデリンドウ、タツナミソウ、ムサシアブミ、ウラシマソウ、ヤブレガサなどの植物も観察できます。これらの林床植物の保全は私たちの活動の重要な目的で、アズマネザサと競合するので春から夏にかけて数回は笹刈を繰り返します。林に棲むアカガエルの産卵場所の池も掃除します。

会の活動場所が誰でも立ち入れる公園内なので、来園者が安全に過ごせることを第一に、立ち枯れして危ない木や、高いところに掛かったままの折れ枝を処理し、斜面に滑り止めの階段を作ることもします。でも、人の立ち入れない場所の枯れ木や藪は残してあります。そんな枯れ木にはアカゲラ、コゲラがやってきます。設置した巣箱には毎年シジュウカラの営巣した跡があります。

また、雑木林の健全性を保つためにサクラやヤマツツジの苗を植え、クヌギやコナラを伐採して萌芽更新も図っています。伐採した 15 センチ前後の太さの枝や幹はシイタケの槽木とし、それより太い幹などは割って薪にします。薪は 1 年以上乾燥させて公園内の「旧加藤家」の竈で焚くほか、児童施設の餅つきなどのイベント用に提供していま

す。細い枝は、溜めておいて、適当な時期にチップーで粉碎し、散策路に敷き込みます。シイタケの槽木の古くなったのを入れ替えて積み上げておくと、クワガタの産卵場所になります。落ち葉掃きも冬の大事な作業です。落ち葉を集めて囲い、米糠を混ぜて発酵させるとカブトムシの幼虫が沢山生まれます。できた腐葉土は、「観察園」の畑に鋤きこみます。「観察園」では野菜やコスモス、ヒマワリなども育てています。

池の前の「山桜の森」で樹齢 70 年を超えるようなコナラの大木数本が、「ナラ枯れ」で枯れ始めました。今年造園業者が入り伐採したので、雑木林にぽっかりと大きな穴が開いた状態になっています。大木を失ったことで、細い樹が強風をまともに受けるようになれば、枝折れの心配が増えます。林床に日光が当たるようになって植生も変わるのではないのでしょうか。この開いた空間にどう対応するのかが今後の課題です。

下草刈り準備 (刈払機)



竹垣作成

活動団体紹介

* 多摩中央公園班 *

作業日：第 2・第 4 土曜日

作業時間：9:30～12:30

集合場所：グリーンライブセンター

* 一本杉公園みどりの会 *

作業日：第 2・第 4 土曜日

作業時間：9:30～12:30

集合場所：一本杉公園 旧加藤家

お問い合わせ：

どちらも 多摩市立グリーンライブセンターまで

電話番号：042-375-8716

～多摩市みどりのかわら版～

多摩中央公園等の思い出～大規模改修へ

多摩市 環境部長 鈴木 隆史

昨年4月に環境部長に着任しました鈴木です。グリーンボランティアの皆様と恵泉女学園大学様における、日頃からのご協力に感謝申し上げます。

さて、私が多摩市に入庁した当初は、よく多摩中央公園を利用していました。まだ、若い！ということもあり、仕事が終わった後に多摩中央公園で友人達と待ち合わせをして、ピクニックをしたりしながら、楽しんでいました。適度な傾斜の芝生にシートを敷いて、お弁当を食しながら友人達と語らう、前方にはきれいな水面の大池を眺めながら・・・。私が入庁したのは昭和62年で、多摩中央公園が開園したのも昭和62年。同期なのですね。当時を思い返してみても、こんなに大きくて綺麗で素晴らしい公園は、自分にとっても誇りみたいなものを感じていました。ただ、その時は残念ながらグリーンライブセンターの存在は、正直なところまったく知りませんでした・・・。

そこから時間が過ぎること十数年、経緯は忘れてしまいましたが、市役所の先輩にグリーンライブセンターに連れて来てもらいました。第一印象は、何て可愛らしい洒落た建物なんだろう、から始まり、室内に足を踏み入ると生暖かくぬめっとした温室の肌感覚、そして植物群に圧倒されるとともに、その次の部屋では室内の木目基調の癒し感を満喫、そして屋外に再び出てみると、素敵な庭園が。その中でも、自分は初体験だったのですが水琴窟に感動しました。多摩中央公園のなかに、このような施設があったのはまさにカルチャーショックでした。自分の認識不足だけなのかもしれませんが、当時は隠れた名所の印象を受けました。今の市民の認知度は大分違うと思いますが。

ここまで、取り留めのないことを縷々書いてしまいましたが、ここで環境部に来たことは自分としては運命に感じています。あんなに楽しませてもらっていた多摩中央公園の大規模改修、そしてグリーンライブセンターも。何としても、大規模改修を成功させ、より多くの市民の皆さんや来街者の方々に、この素晴らしい公園や施設を知っていただき、楽しんでもらいたい。

そのためには、引き続き、グリーンボランティアの皆様と恵泉女学園大学様のお力は欠かすことのできない、強力な推進力と思っています。市としましても、ボランティアの育成や支援に、積極的に努めていきたいと思っておりますので、ぜひとも、これまで以上のお力添えを賜りますよう、どうぞよろしくをお願いします。



多摩中央公園(2019年撮影)

表紙の絵

「キジムシロ」絵・内城葉子

ヘビイチゴは花茎に花が一つ、キジムシロは多数つきます。葉が放射状に広がることからキジが座るムシロに例えられたようです。

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal受賞など

<所属>日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書>「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部にも及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

編集後記

1年ほど前から、自転車にハマっております。電動自転車の前後部座席に子供たちを乗せていた時代は過ぎ、もうじき歳も大台に乗るし(笑)、ひとりに慣れることの必要性を感じ、さらに自分が漕いだ分だけ進む達成感に惹かれ、自然こなしむマウンテンバイクを手に入れました。

最初持て余した体と自転車との戦いでしたが、梅の匂いや桜の色、新緑の清々しさに誘われるように自転車と共に外に出るようになり、気が付くと片道20kmのライドが当たり前になりました。多摩市から北は上北台、南は横浜、東は吉祥寺、西は厚木まで。余計なことを忘れ、頭の中がすっきりクリアになるのも、自転車の良いところです。(まつ)

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル 41 号

発行日：2021年3月25日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>